海外チャレンジ支援　プログラム修了報告書

1．概要

（1）氏名

ふりがな	さいとう　ゆうな	提出日	2022 年　3 月　26 日
氏名	斎藤　優菜	報告の対象期間	2021 年　8 月　16 日～ 2021 年　12 月　25 日

（2）在籍校の情報（記入日時点）

学校名	青山学院大学	学部名	法学部
ふりがな	あおやまがくいんだいがく	学 年	4 年
学科 専攻・コース　等	法学科　公共政策コース		

（3）卒業校　※当てはまるものに「●」

学校名	小山台高等学校	課程	●	←全日制	卒業年月（西暦）	2018 年
				←定時制		3　月

以下当てはまるものに「●」を入力

●	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流		長期留学
	←在籍大学の研修プログラム		短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・斡旋の留学プログラム	主催者・斡旋機関/業者名	多様性キャリア開発
	←その他・特定のプログラムには参加しない。		

以下当てはまるものすべてに「●」

	←（1）本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である（卒業必修要件、必修科目等）
●	←（2）本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
	←（3）上記（1）、（2）のどちらでもない

留学期間	2021　年　8 月　16　日　～　2021　年　12　月　25　日
留学国／地域	アメリカ合衆国/ネブラスカ州

２．留学計画の概要

（１）留学計画のテーマ

①「メディアリテラシー」②「メディアを用いた広報活動」

（２）留学の内容（実践活動を含む）

留学計画の概要

①メディアリテラシー

・理由

日本の今後のメディアリテラシーの在り方を各国を参考に考察するため。マスメディア、SNS に対する受け取り方は各国で違いがあると感じる。日本では、実際にＳＮＳでの誹謗中傷が加速しテラスハウスの木村花さん自殺なども起こっている。ドイツでは日本に比べ非常に誹謗中傷に対する開示請求等が厳格になっている。表現の自由との対立がある中で視聴者、一般民衆のリテラシーが重要になってきている。特に自由の国と称されるアメリカにおけるメディアリテラシーの価値観を学び、日本と比較し、日本のメディアリテラシーはどうなっていくべきか考察したいと考えていたから。就職先に Employee Resource Group というダイバーシティに焦点を当てたグループを作ることができるプログラムがあるため、多民族国家であるアメリカにおけるメディアリテラシーの在り方を参考に、ダイバーシティを受けいれるメディアリテラシーの教育をする団体を立ち上げたいと考えていた為。

・活動内容

メディアリテラシーの授業を受講する。また、そのうえで日本のメディアリテラシーと比較する。それを踏まえ、現地の学生と討論しアメリカでのメディアリテラシーの在り方を学び、参考にすべき点を日本の学生に伝える。

②メディアを用いた広報活動

・理由

商業としてのメディアの受け取られ方の違いを知るため。広報の授業も受講するため、海外での広報の形、海外におけるメディアや SNS の影響力を学び将来的に広報に生かしたいと考えていたため。

・活動内容

広報におけるソーシャルメディアの活用方法を学ぶ。また、adobe をはじめとするデジタルメディアの使い方を学ぶ。これを実際の仕事で利用し、さらなる会社の知名度向上に貢献する。

留学内容（実際に実施した活動）

①メディアリテラシー

Social Media、media literacy class への参加、討論：アメリカのメディアリテラシーについて学んだ。

Wild wild country の視聴、日本とアメリカの信教の自由に対するメディアの違いについてのペーパーを書いた。

メディアリテラシー：民主主義社会におけるメディアの機能を理解するとともに、あらゆる形態のメディア・メッセージへアクセスし、批判的に分析評価し、創造的に自己表現し、それによって市民社会に参加し、異文化を超えて対話し、行動する能力である。

②メディアを用いた広報活動

Public relation class, Digital media class への参加：二つで広報活動のテーマについての収穫があった。

PR クラスでのプロジェクト：実際にリンカーンの NGO 団体の PR プランを計画をした。これにより、アメリカにおける広報プランの組み立て方を学ぶことが出来た。

Digital media class：実際に adobe ソフトを使い仮想企業のロゴ、ムードボードを作成した。adobe の photoshop や Illustrator などの使用方法を学んだ。

（3）留学の動機と背景

留学をしようと考えた動機
在学中に留学経験のあった父から、「アメリカは日本の 10 年先をいっている」と言われたことがまず私が海外へ興味を持ったきっかけです。30 年前、日本では携帯電話はあまり普及していませんでしたが、父はアメリカで「メールアドレスを教えて」と何度も言われ非常に驚いたそうです。その後、約 10 年後から日本でも携帯電話が広く普及し、今では生活必需品となっています。この話を聞き、当時留学経験のなかった私は世界トップの GDP を誇り続けるアメリカという国に強く興味を抱きました。そして、自身の目で確かめたいと思い今年の春にカリフォルニア大学デイビス校へ大学の春季プログラムを利用し留学しました。デイビスでの暮らしはたった 1 か月でしたが、毎日が新しく新鮮な出会いにあふれており、多くの事を学び、また沢山の出会いを果たしました。1 か月しかない中で最大限に語学力だけでなく文化や価値観を学ぶには 1 日 1 日を大切に使わなければいけないと思い、春季プログラムだったため多くの日本人学生がいましたが、私はこの中で一番成長するには周りと違うことをしなくてはと思い、あえて日本人とはあまり一緒に出かけませんでした。毎日自分でフライヤーの貼ってある掲示板や FaceBook、Instagram といった SNS を利用し、シンポジウムから講演会、ワークショップ、交流イベント、ボランティア、サークル、果てはインターンまで、本当に 30 日間違うものをキャンパスに着いた初日から探し、参加しました。そもそも周りの学生は思い出作りに来ている側面が大きかったため、誰も参加しようとする人はいなかったので日本人 1 人でアポイントメントを取り参加することは初めはとても緊張しましたが、意外にも気にされていないということにすぐ気が付きました。日本と違い多くの人種がいるため、そもそも”日本人”という概念にとらわれていたのは寧ろ私の方で、アジア人の子？といった捉え方をされるのだということを初めて知りました。英語が拙いながらに色々な学生に話しかける内に、全く抵抗が無くなりました。無視や嫌がられることを怖がって話しかけないことよりも、話しかけて得られる情報や交友関係の方が遥かに自分のためになるということを学びました。このように、自分は何事にも挑戦してみるという長所を活かし、誰よりも濃密な 1 か月にすることが出来たと思います。しかし、勿論多くの事を学びましたが、1 か月だとやはり向こうの部活やサークルに入ることや、また現地の授業に参加し学生に聞いた盛んな質疑応答形式の授業を目にすることが出来ませんでした。そこで、実際により現地の学生に近付き、さらに語学力を向上させより多くのことを学びたいと思い、今回の協定校留学に申請しました。

３．留学の成果及び留学経験の活用

（１）留学の成果

※留学計画にそくして留学/研修でどのような成果を得たか。

①メディアリテラシー

主にSocial Media、media literacy classでアメリカのメディアリテラシーについて学びました。アメリカのメディアリテラシーは、日本と違い特に人種が大きなメディア媒体における差別問題として取り上げられているようでした。日本は単一民族国家でありあまり人種について考える機会は少ないですが、アメリカは多民族国家であり特に人種に関するメディアを通した公的な発言は慎重になる必要があると思いました。また、少数派集団に対するメディアバイアスについても学ぶことが出来ました。カルト集団のドキュメンタリーを見て、日本でのカルト集団のメディアによる扱われ方とアメリカの違いについてのペーパーを書きました。また、違いについてクラス内で討論をしました。これを通し、メディアが信教の自由を侵害する危険性を学ぶことができました。日本は無神教が主流であまり信教の自由はメディアリテラシーにおいても問題視されにくい現状があるため、この危険性はもっと周知していくべきだと思いました。

②メディアを用いた広報活動

Public relation class, Digital media classの二つでこのテーマについての収穫があった。PRクラスでは、プロジェクトで実際にリンカーンのNGO団体のPRプランを計画しました。これにより、アメリカにおける広報プランの組み立て方を学ぶことが出来ました。例えば、メディア媒体において、焦点を絞った媒体選択が必要だということなど現地特有の知識を得ることが出来ました。これを4月から働く上で生かしていきたいです。

Digital media classでは、実際にadobeソフトを使い仮想企業のロゴ、ムードボードを作成しました。adobeのphotoshopやIllustratorなどの使用方法を学びました。PRクラスでプレスリリースの作り方も学んだため、写真やロゴなどを含め仕事で使用していけるようにする。

（２）自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学／研修で得た学び　とその理由・背景

上記テーマに沿った発見が第一にあった。その他には、やはり英語でコミュニケーションを取ることへの抵抗が減少したことが大きいと思う。日本人が誰もいなかったため、ほとんど日常で日本語を使わずに英語でコミュニケーションを取る機会を増やすことができた。また、日本語学部があった影響も大きいが、日本に興味のある人がとても多く日本の良さを教えてもらうことができた。普段日本にいると気づけない、公共交通機関に良さや車社会でないこと、ヘルシーでおいしい日本食、盗難などが少ない治安の良さなど。しかし、これらは留学に行って初めて気づくことが出来ると思う。日本人も日本の良さに気づけば日常がさらに楽しいと思う。そういう意味で、たくさんの後輩に留学を経験してほしいと思った。

（３）留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

・①で学んだ内容を、アウトプットしていきたい。すぐに団体を立ち上げることは難しいと思うが、②で学んだ内容を活かしソーシャルメディアかブログ等で発信していきたい。

・②の内容は広報として海外でも活躍できる人材になるように、知識とスキルを生かしていきたい。

・英語については、海外駐在ができるようにさらに日本でも研鑽していきたい。

４．受入れ機関の概要

受入機関の名称
Nebraska Wesleyan University
受入機関の所在地
5000 St. Paul Avenue　Lincoln, NE 68504　U.S.A
受入機関の概要及び特徴
1887 年創立。ネブラスカ州リンカーンに立地するメソジスト系の小規模大学。U.S. News and World Report では、同州で最も良質なリベラルアーツカレッジとして評価している。人気の専攻科目は心理学、ビジネス経営、初等教育など。“Work and Play（よく学び、よく遊べ）”が大学側の教育方針で、スポーツや学内行事に積極的に参加する者の比率が高い。１年生から教授の下でハイレベルな研究ができることでも知られ、２年次以降も継続して在籍する学生の比率や卒業する者の比率は高い。学生の 70%は卒業後一年以内に就職している。
受入機関の様子
一般的な私立大学。ただし近所のネブラスカリンカーン校に比べとても小規模で少人数、一クラスの人数も 10～３０名と少なく、手厚い指導を受けられる。インターナショナルスチューデントは約 30 名おり、オリエンテーションなどが頻繁に行われ全員と友達になることができる。寮は Centennial Hall という古い寮に一年生と留学生全員が入居する。そのため、基本的にいつでも友達と話すことができる環境で、特に英語を勉強したい学生にとっては非常に良い環境だったと思う。また、日本語学部があり、日本に興味のある現地の学生も多い。

受入機関の様子が分かる写真

Old main と呼ばれる最も歴史のある校舎。主に語学の授業に使用される。

Acklie hall。主に理系の実験や授業が行われていた最も新しい校舎。

５．留学授業・生活について

（１）授業履歴　　（※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。）

受講した授業科目名	受講期間	週当たり時間数	単位数	授業の内容及び授業から得られたこと
Public Relation Class	semester	2.5	3	アメリカでの広報プランの作り方
Writing and Social Media	semester	1	2	アメリカでのソーシャルメディアの在り方、使い方
Intro Digital Media	semester	3	4	Adobe を用いた実践的な広報プランの作り方、adobe の使用方法
Intro Global Human Health	semester	1	2	各国の主要な健康問題
Mindfulness and Stress	2nd 8weeks	2.5	2	瞑想、ヨガなど
Writing and Media literacy	1st 8weeks	1	2	メディアリテラシー

（２）参加した行事／イベントなど　　（※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。）

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容及び得られたこと
State Fair	9 月	Nebraska state	カウボーイなどネブラスカの伝統行事を見た。ミスコンのようなものに様々な体型の人が出ていてルッキズムの薄さを感じた。ルッキズム （英: Lookism）とは、「Looks（外見・容姿）+ism（主義)」から産まれた外見至上主義を意味する 。
Thanks giving	11 月		友達の家で伝統的な thanks giving のディナーを食べた。アメリカの家族の在り方を教えてもらった。
Moon festival	10 月	ACCC(Asian Community & Cultural Center)	アジアの料理を食べた。アジア人の団体がネブラスカの人びとにインドのダンスやタイ料理など紹介していた。
Halloween	10 月		近隣のデコレーションを見て回った。近隣住民のつながりが非常に濃いと思った。
Japanese conversation table	毎週木曜日	Japanese professor	アメリカ人の視点からの日本を学んだ。楽しく日本語を学べるようにカードゲームを用いて教えた。

（３）留学で得られた学位や資格等　　（※証明書などがあればコピーを添付のこと。）

なし

（4）現地での生活

【公表用】

※宿泊先での生活や特に注意したこと

Wesleyan 大学の三人、オーストリア人、マレーシア人、マルタ人、インド人、私の８人で主に行動していました。毎週違うイベントに参加しました。日本人が今年はコロナの影響により一人で、初めは緊張しましたが逆に日本に興味のある人が皆話してくれて、輪を広げることが出来ました。日本人がいないからこそ、英語を使わなくてはいけない環境で逆に良かったと思います。ひたすら英語を話す機会を広げられるように自分から無料のイベントなどにどんどん参加し知り合いを増やしました。積極性が大切だと思います。

特にひどく困ったことはありませんでした。新型コロナウイルスに感染してしまい隔離することになったときは慌てましたが、大学が食事や隔離施設を全て手配してくれました。隔離は一週間程度で、教授に連絡するとオンライン参加にしてくれました。

６．留学を考えている人へのメッセージ

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

留学をしてよかったこと：

①海外の友達を作ることができた点

→下記写真にあるように、様々な国の友達を作り多くの文化を体験することができました。

②日本を客観的に知ることができた点

→日本に行きたいという留学生から、日本のアニメ文化、ボーカロイドなどの浸透率が非常に分かりました。日本の大きな魅力であると思いました。

③英語力の向上

→TOEIC450→TOEIC765 になりました。

④異文化を学ぶことができた点

→①と同じです。

留学前やっておけばよかったこと：

①留学後のプランを立てていくこと

②その大学に留学した人に話を聞くこと（余計なものをたくさんもってきてしまった）

③リスニング力の向上（友達を増やすにも必要）

留学を進める理由：

①異文化を知らないというのは、非常に狭い世界であるということに気づけないから。私も高校生の頃は日本で十分だ、行く必要無いと思っていたが留学に来てその考えは変わった。

②今後の日本社会で、英語が話せないということは将来の職業の幅を狭めることになるから。何をやるか決まってない人こそ留学に行くべきだと思う。

アドバイス：

①金銭面。ISEP を利用できる大学を選んだ方が良いと思う。協定校以外にもいろいろな方法があるということは絶対に調べたほうが良い。

７．留学中の様子が分かる写真

写真	説明
	隣街に住んでいる友達の友達の彼氏の別荘に遊びに行った際の写真です。四か月の間に二回も訪れました。湖が一面に見え、非常に美しかったです。みんなでシークレットヒトラーやウィザード、クルー、スイッチといった様々な国のゲームをして遊びました。最も楽しかった思い出の一つなので選びました。
	ナイアブラという場所でカヌーをしました。これは滝の前での写真です。三日間泊り、昼はカヌー、夜は星空を見に行きました。近くにあった廃墟の教会で怖い話をみんなでしたのは良い思い出です。
	ネブラスカと言えばコーンと言っていいほどコーン畑がいたる道路沿いに広がっていました。これは Apple orchard にいったときの写真です。ドライコーンのプールがあり、友達と吹き上げました。帰った後もこのコートからやたらとドライコーンが落ちてきました。
	ターキーランというサンクスギビングの早朝のイベントに行った時の写真です。これはネブラスカだけでなく様々な地域で行われており、1 マイル走りました。

８．留学に関連した費用

費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金		0 円
在籍校以外の奨学金		円
現地インターン給与		円
現地アルバイト給与	日本語チューター	20,000 円
		円
		円
合計		円

支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる場合は、●を付ける		摘要
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一括で支払うもの	0 円			←往復航空運賃	
				←宿泊費	
				←食費	
				←その他	

以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。（二重）

費目		予算	実績	摘要／差異の内容
往復航空運賃		200,000 円	245,870 円	航空券が予定時点では確定していなかったため。
学費	在籍大学授業料	1,146,200 円	1,146,200 円	
	現地学校等授業料	0 円	円	
	その他	円	円	
現地滞在費	家賃/宿泊費	600,000 円	600,000 円	
	食費	200,000 円	200,000 円	
	交通費	100,000 円	100,000 円	
		円	円	
		円	円	
その他	陰性証明書代金	0 円	40,000 円	陰性証明が搭乗に必要だったため。
		円	円	
		円	円	
合計		2,246,200 円	2,332,070 円	現地通貨レート：2,332,070 円＝＄20,174 通貨単位名：ドル

※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

９．自由記述

①留学のテーマに関する報告

【少数派集団へのバイアス（信教の自由）】

ペーパー

Wild Wild Country

こちらは主に Writing and Media Literacy の授業で取り扱った話題です。このドキュメンタリーを元に、メディアのカルトという宗教的少数派集団の扱い方について学び討論しました。上のリンクがこのドキュメンタリーとイエスの方舟、オウム真理教事件についての比較について論じたペーパーになります。下のリンクは、ネットフリックスのこのドキュメンタリーのリンクです。このドキュメンタリーでは、ラジニーシという新興宗教がメディアにより弾圧され、段々と過激化していき事件を起こす様子が描かれています。このドキュメンタリーで特に注目すべき点は、ラジニーシは初め合法的に宗教活動を行っていたということです。しかし、規模が拡大していくにつれ、メディアは非常にこの団体を批判的に取り上げるようになり、近隣住民との確執が広がります。この作品以外にも様々な例（Tainted Witness)からメディアは少数派集団を否定的に描く傾向があると学びました。この作品でも同じように少数派集団はたとえ合法であっても、非常に否定的に描かれます。これは信教の自由がメディアにより侵害される危険性があるということです。日本でも「イエスの方舟」という事件がこれに近い形です。メディアにより少数派宗教が解散させられました。日本では無宗教者が大半を占める中で、このようにメディアが信教の自由を脅かす可能性を学びません。実際に私は法学部でしたが、このような事例は扱いませんでした。そのうえで、メディアというのは様々なバイアスがかかっており、それが基本的人権を侵害する可能性があるということを教育していくべきだと思いました。その一助になりたいと思います。

【広報プランの組み立て方】

プレゼンテーション

Leadership lincoln という実際の非営利団体に対し PR プランを提案しました。初めにゴール、次にタイムラインといったアメリカの PR プランについて学ぶことができました。タイで広報だった方の話を聞き、他の国ではまた違ったプランが必要なのだと分かりました。そのため、海外で広報として働きたい私にとってこのアメリカでの PR プランの組み立て方を学ぶことができたのは非常に有益でした。また、プレスリリースの作り方も学んだため働き始めてから日本のプレスリリースと比較し、良い点を取り入れていきたいと思います。

【Adobe スキル】

プレゼンテーション

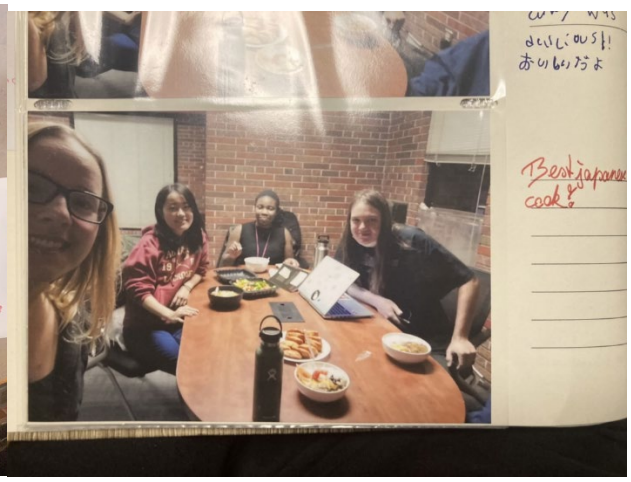
こういった画像を Adobe ソフトを用いて作成しました。さらに、企業案件の練習もしたためロゴなど含めて仮想企業のアイデア提案をしました。私は三島由紀夫の出版社への提案として、上記ロゴや資料を作成しプレゼンテーションしました。

②留学を終えて、自分自身の成長や学び（実感したエピソードを含め）

【英語で話すことへの抵抗の減少】

上記写真の友達と非常に多くの時間を過ごしたおかげで、英語で話すことへの抵抗が無くなりました。日本人が一人で、他の留学生が全員英語を話せる環境だったので初めは拙い英語を話すことへの恐れがありましたが、友達と話すうちに解消されていきました。何よりも、私は行くときに「全ての誘いにイエスという」と決めていて、少し疲れたとか知り合いがいないからという言い訳をせずに誰かに誘われたり、イベントの開催があったときに必ず参加するようにしていました。その結果このように友達を作ることができ、英語で話すことへの抵抗の解消につながったのだと思います。

【日本の良さ】



右の子は私のパートナー（IPAL と言います）だった友達です。彼女も日本語を学んでおり、本当に日本の良さを逆に教えてもらいました。アニメやボーカロイドといったわかりやすい最近のクールジャパンだけでなく、日本語そのものの美しさや、日本の礼の文化、日本食、武道など様々な日本文化に興味を持ってもらえていることに気が付きました。また、日本が公共交通機関の発展や、車社会でない点など、非常に暮らしやすい国であると知りました。もちろんアメリカでの生活も最高に楽しかったし、もう一度行きたいですが、同様にこうした日本の良さをもっともっと伝えていきたいと思いました。

【異文化】

インターナショナル 30 人全員と話すことができる環境で、アメリカだけでなく様々な国のイベントを学びました。一枚目はマレーシア人の友達とマレーシアレストランに行った際の写真、二枚目はサンクスギビングのディナーに招待してもらった時の写真です。三枚目と四枚目はオーストリア人の友達が作ってくれたオーストリア料理です。最後の写真はインド人の友達が作ってくれたインディアンカレーです。このように、様々な国の料理、文化、ゲームなど学ぶことができました。これは何にも代えがたい今回の留学での宝だと思います。